

教職科目「特別活動論」におけるアクティブ・ラーニングの実践研究

－ 演習を通して－

Practical study of active learning in the teaching profession “Special Activity Theory”

－ Through exercises －

法政大学兼任講師 田神 仁

0 概要

2019年度洗足学園音楽大学教職課程年報に「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 ―授業実践を通しての成果と課題―」という研究主題で論文*¹を掲載していただいた。その研究成果を踏まえ、2020年度は法政大学教職課程年報に「オンライン授業のよさを生かしたアクティブ・ラーニングの実践研究－zoomによるグループワークを通して－」という研究主題で、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングに関する実践研究を発表させていただいた。今年度（2022年度）は、幸いなことに法政大学で教職科目「特別活動論」を初めて担当する機会を得た。そこで、「特別活動論」の授業において実践できるアクティブ・ラーニングとはどのようなものかについて授業実践を通して検証した。言うまでもなく特別活動は、「学級（ホームルーム）活動」「学校行事」「生徒会活動」から構成されている。私は、学生が担任や生徒指導部などいろいろな立場に立った時に直面する様々なトラブルやその対応について学生が演習を通して疑似体験すれば、将来教員になったときに自信をもって解決できるのではないかと考えた。また、大学の授業は、とすれば特別活動の歴史や学習指導要領等に関する説明が多くなりがちであると聞く。これからの学校教育においては、主体的・対話的で深い学び、つまり、アクティブ・ラーニングの実施が強く求められている。将来教員になる学生が大学でアクティブ・ラーニングを体験していなければ、中学校や高等学校の授業で主体的・対話的で深い学びを実践できるはずがない。私は、演習を重視した授業を行うことで、特別活動における教員としての実践的な指導力の育成を図った。演習を中心とし、授業者はファシリテータに徹するという点で本研究及び実践は新しいのではないかと考える。

1 研究主題設定理由

依然としてコロナ禍ではあるが、2020年度の小学校から新しい学習指導要領が実施され、今年度からいよいよ高等学校でも実施された。その主たるねらい

は、これからの持続可能な社会を創造する人材育成である。具体的には、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の確かな学力をはじめとする知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成である。そして、それらの実現のために「主体的・対話的で深い学び」が極めて強く求められている。これに先立つこと8年前、平成24（2012）年8月中央教育審議会答申*²「4. 求められる学士課程教育の質的転換（学士課程教育の質的転換）」が出され、大学のアクティブ・ラーニングへの授業改善が強く叫ばれた。その5年後文科省は学習指導要領の改訂を行うが、改訂に先立つパブリックコメントを求める際に「アクティブ・ラーニング」という単語を用いたため、文科省の趣旨と異なる部分で大学を中心に議論が持ち上がってしまった。そのため、文科省は以後、学習指導要領においては「アクティブ・ラーニング」ではなく「主体的・対話的で深い学び」を用いるようになった。したがって、学習指導要領の趣旨を踏まえれば、この2つの単語は同意と考えてよい。ただ、本研究は大学における実践研究なので「アクティブ・ラーニング」を用いることにした。

筆者自身の大学生時代を振り返ってみても、大学の講義の大半は教員が一方向的に説明する形式であった。教員によっては板書さえも行われなかった。当時は中学校や高等学校の授業も、大学ほどではないにしても、いわゆる講義形式が多かった。そこで、平成28（2016）年12月21日に出された中央教育審議会答申では、これからの持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指し、そのために必要な資質・能力を育成するべく、生徒の学び方を「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」に変えることが強く求められた。3年前小学校から新しい学習指導要領が年次進行で実施され、今年度から高等学校が実施された。そのような状況下において、一足先に実施されている大学教育においてはなおさらアクティブ・ラーニングが実現できていなければならないと考える。

そこで、本研究では、「教職科目『特別活動論』におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 ―演習を通して―」という研究主題を設定した。本研究が、大

学におけるアクティブ・ラーニング実現の一助となれば幸いである。

2 研究目的, 研究仮説, 研究方法

(1) 研究目的

教職課程の「特別活動論」の授業においてアクティブ・ラーニングを実践することにより、アクティブ・ラーニングの成果と課題を明確にする。そして、その成果を大学授業の改善のみならず、中学校・高等学校における授業での「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実に資することを研究目的とする。

(2) 研究仮説

本研究では、研究仮説を次のように設定し、授業実践を通して検証を図った。

【研究仮説】

学校において担任や校務分掌で経験する様々な事例を基に授業内容及び授業方法を工夫すれば、「特別活動論」においてアクティブ・ラーニングが実現できるであろう。

(3) 研究方法

本研究では、大学における「特別活動論」の授業において授業内容及び授業方法を工夫して演習を行うことで、「特別活動論」においてアクティブ・ラーニングを実践し、成果と課題を明らかにする。

3 研究内容

(1) アクティブ・ラーニングに関する基礎研究

ア 平成 24 (2012) 年中央教育審議会答申から
(筆者の研究論文*¹ から引用)

平成 24 (2012) 年 8 月中央教育審議会答申「4. 求められる学士課程教育の質的転換 (学士課程教育の質的転換)」において、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修 (アクティブ・ラーニング) への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、

生涯学び続ける力を修得できるのである。(下線筆者)」と、これからの大学教育におけるアクティブ・ラーニングの重要性が強調されている。

イ 文部科学省の先行研究から

平成 26 (2014) 年 11 月文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」アクティブ・ラーニング失敗事例ハンドブック*³には、アクティブ・ラーニングにおける失敗結果とその原因が明記されている。本研究では、その中で「グループワーク無機能化」の部分に焦点を当て、対面授業とオンライン授業におけるグループワークを中心に実践を行った。特に、教員の失敗原因である「過剰介入」「介入不足」や学生の原因である「発言しない」「提出物の不管理」などに留意しながら実践を進めることにした。

(2) 「特別活動」に関する再確認

「特別活動」の目標や内容については、学習指導要領の中で次のように規定されている。

【目標】

- ① 人間関係形成
- ② 社会参画
- ③ 自己実現

【内容】

- ① 学級 (ホームルーム) 活動
 - ② 生徒会活動
 - ③ 学校行事
- ※ 部活動は特別活動ではないが、この授業で扱うよう文部科学省から指示されている。

(3) 「特別活動論」における授業実践

ア 受講生人数

理工学部	2 年生	17 名	
	3 年生	5 名	
	4 年生	1 名	
生命科学部	2 年生	13 名	
	3 年生	3 名	
情報科学部	3 年生	3 名	合計 42 名

イ 授業内容の工夫

授業内容では、学生が将来担任や校務分掌で遭遇すると思われるテーマを基に演習を行うべく、各回の授業では次の通り教材 (事例) の工夫を行った。

- ① 生徒間の人間関係構築 (学級活動)
○他己紹介 ○いいところ探し
- ② 席替えにおけるトラブル対応 (学級活動)
- ③ 学級だよりを発行すべきか否か (学級活動)
- ④ 委員選出におけるトラブル対応 (学級活動, 生

徒会活動)

- ⑤ 文化祭の出し物決めにおけるトラブル対応 (学級活動, 学校行事, 生徒会活動)
- ⑥ 生徒総会の在り方 (生徒会活動)
- ⑦ 文化祭実施上の課題と解決策 (学校行事, 生徒会活動)
- ⑧ 生徒会役員選挙に関わる課題と解決策 (生徒会活動)
- ⑨ 「生徒会サミット (学校間生徒会交流)」 (生徒会活動)
- ⑩ 修学旅行の班分けにおけるトラブル対応 (学校行事, 学級活動)
- ⑪ 職場体験実施上の課題と解決策 (学校行事)
- ⑫ 卒業式に関わる課題と解決策 (学校行事)
- ⑬ 現職教員から学ぶ [外部講師招へい]
- ⑭ 部活動指導における課題と解決策 [体罰]

特に⑬では、現職の中高一貫教育校教員を講師に招き、中学校や高校で行われている特別活動の実態や指導上の留意点等について理解を深める取り組みを行った。具体的には、「学校への携帯電話持込を認めるためのルール」について中学生自身に話し合いをさせるという演習であった。

授業内容は、上記のとおり「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」「部活動」に関する事例を取り扱った。

「学級活動」と「学校行事」では、年度初めに行う生徒間の人間関係構築、席替え、各種委員選出、文化祭の出し物決め、修学旅行の班決めについて、担任として遭遇するテーマを扱った。「生徒会活動」と「学校行事」では、生徒総会の在り方、文化祭実施上の課題と解決策、生徒会役員選挙、生徒会サミットを題材に生徒指導部教員としての関わり方について演習を通して理解を深めた。「部活動」では、教員による体罰に関する事例を基に体罰禁止について再確認した。これらのテーマは、ほぼ全ての中学校・高等学校教員が遭遇するものである。

ウ 授業方法の工夫

授業方法としては、次の工夫を行った。

- ① グループ協議
- ② 他己紹介・いいところ探し (体験)
- ③ 担任の模擬授業 (席替え, 委員選出, 文化祭の出し物決め, 修学旅行の班分け)
- ④ デイバート (学級だより発行, 生徒総会の在り方)
- ⑤ ジグソー法 (文化祭の実施, 職場体験の実施)
- ⑥ ロール・プレイング (生徒会サミット, 部活動指導)
- ⑦ オンライン授業 (zoom の活用)

毎回、個人研究やグループ協議について課題に記入して提出させ、コメントを書いて次回に返却する形式をとった。また、必要に応じて解説プリントを配布し、コメントの全体共有を図った。[文末の図1～図5参照]

対話的な学習の基盤として、「グループ協議」は全ての回において実施した。その際の留意点としては、「先に個人研究の時間を確保する」「アイス・ブレイキングとして、グループ協議の最初に一人15秒の自己紹介を行う」「必ず班で話したことを代表者が発表する機会を設ける」ことを意識した。

「他己紹介・いいところ探し」は、担任として生徒間の人間関係構築のための手法の一つとして学生に体験させた。「担任の模擬授業」は教科ではないのではとんど実施されていないが、教員になってから必ず遭遇する場面なので、敢えて模擬授業の形態をとった。「デイバート」と「ジグソー法」は、物事を多面的に考えることの重要性を再認識させるために行った。「ロール・プレイング」は、実際に教員や生徒になったつもりで思ったことを述べ合い、それに対する対応力の育成を意識した。「オンライン授業」は新型コロナ対策として3年前から必要に迫られて実施してきたが、そのよさを生かし、「デイバート」と「ジグソー法」の授業で用いた。その理由は、授業で42名が数回席替えを行うには手間と時間がかかるからである。特に、模擬授業においては、受講生の許諾を得てzoomで動画を録画し、授業後に動画を送付して授業の振り返りに生かすようにした。オンライン授業では、学生が提出課題をWordで立ち上げ、授業中に記入する。そして、授業後に学習支援システムに提出する。授業者はWordのコメント機能を用いて提出された課題にコメントを書き、学習支援システムで返却する。つまり、完全なペーパーレスとなる。また、新型コロナ等を理由にオンラインでの授業参加が認められることがあった。その場合は、当該学生のみzoom参加というハイフレックス授業となる。その学生を教室前方のスピーカーに近い座席である1班に属させ、音量を下げたマイクと画像を使ってzoom参加者を交えた話し合いを行った。

以下、これらの実践を通して研究仮説の検証を行った。

4 研究仮説の検証

ア 授業内容・方法

① 学級活動・学校行事 (模擬授業)

これらの内容については、担任による模擬授業の形で実施した。授業者は希望者を3人募ったが、毎回4人以上の希望者があり、じゃんけんで授業者を決めて

いた。他の学生は生徒役として予想される発言やトラブルなどを次々と起こしたが、どの担任役もそれに対して上手に対応していた。担任役が困ったときは同じ班から助けを出す予定であったが、結果として手助けなしで済んでいた。模擬授業後は、全体で研究協議を行ったが、活発な意見交換が行われ、予定時間を過ぎることがしばしばあった。授業後は、受講者の許諾を得て模擬授業の様子を録画して配布し、振り返りに資するようにしたが、受講者の感想によれば極めて好評であった。

② 生徒会活動・学校行事(ディベート・ジグソー法)

ここでは、校務分掌の生徒指導部生徒会担当教員になったという想定で、「生徒総会の在り方」「文化祭実施上の課題」「生徒会役員選挙」について、zoomを用いたディベートやジグソー法により理解を深めた。42名の受講者が授業の途中で何度も席替えを行う手間と時間を省くためにzoomを用いたが、ディベートの際、ブレイクアウトルームによって作戦会議で他班の声が聞こえないという想定外のよさもあった。これらの授業においては、各班でタイムキーパーを決めて進行管理を行ったが、事後のグループでの振り返りが白熱し、100分間の授業時間を超えてしまうことが多かった。

③ 部活動(ロール・プレイング)

本来部活動は特別活動ではないが、大学(文科省)の依頼により、この授業で扱うことになっている。部活動指導ではいろいろな場面が考えられるが、最も今日的な話題である体罰について取り上げ、ロール・プレイングにより体罰禁止の意味理解を図った。体罰発生事例を読み、登場人物になり切ってロール・プレイングを行った。当該授業の直前に起きた体罰のニュースを見てその状況を事例に盛り込んだ。それは、「体罰動画がSNSにアップされた」「当該教員はもちろん、体罰を受けた生徒や保護者たちは体罰だと思っていない。むしろ全国大会進出がふいになることを恐れている」「他部の生徒は体罰だと認識している」「SNSを見たマスコミが校長を訪ねて来た」という部分である。そして、4回のロール・プレイングは、全て校長と相手との対話とした。その理由は、教員なら必ず遭遇する「苦情対応」についても体験させたかったからである。その結果、どの班も活気あるロール・プレイングとなり、各回とも時間ぎりぎりまでロール・プレイングが続いていた。

イ 提出課題の感想欄から見た検証(原文のまま)

① 他己紹介・いいところ探し

- ・感想を共有する時間がよかった。グループ全体で

フィードバックができるので、自分との比較ができた。

- ・アイス・ブレイキングが楽しかった。
- ・「いいところ探し」は、初対面の人と仲良くなるのによいグループワークだと思った。
- ・自分が先生になったら、このような企画をたくさん行いたい。
- ・顔見知りでない人がほとんどだったが、他己紹介を通じてスムーズに協議ができた。
- ・同じ班の人の意見を聞いて考えが広がった。
- ・実際に現場で行われている取組を自分たちで行うことで、生徒の立場に立って考えることができたのでよかった。
- ・最初の授業でどんなことをするのかと思っていたのですが、楽しくてあっという間に終わったので、来週以降が楽しみです。

② 模擬授業

- ・教室のみんなで小さな感動を共有できたのがよかった。
- ・教員は、表情や言葉選びに気を付けないといけないと思った。
- ・改めて高校時代の担任のすごさが分かった。
- ・模擬授業を見て、生徒への対応の難しさを感じた。
- ・模擬授業を見て、全ての生徒を納得させるのは難しいと分かった。
- ・生徒とのやり取りが信頼関係を築く上で重要だと分かった。
- ・生徒の立場になって考えるということが如何に難しいかが分かった。
- ・どこまで生徒の意見を取り入れるかが難しい。
- ・その場で話し合わせるのではなく、前の週から考えさせておくのがよい。
- ・模擬授業をやってくれるおかげで気付けることがたくさんあった。
- ・文化祭の出し物として認められない案を生徒が考えた場合、きちんと理由を説明しないとイケないと思った。
- ・教師自身の体験談を話すことで1年生の文化祭に対するイメージが湧く。
- ・模擬授業でグループ協議をするとは思っていなかった。
- ・自分が思い付かないようなトラブルがたくさんあり、学ぶことが多かった。

③ ディベート

- ・自分の考えと反対の立場でも意見を述べるのが大変だった。

- ・Zoomでの話し合いはあまり盛り上がりせず、つまらないものだと思っていた。しかし、今回のディベートでは、みんなが自主的にメモを取っていたり、話し合いが円滑に進むよう仕切る人が現れたりして、とても内容の濃いものになった。私自身も、しっかりと話し合いに参加することが出来たし、自分の意見も言うことが出来た。
- ・「学級だよりの発行」について、「生徒のため」「保護者のニーズ」「担任の負担」「配布・配信方法」など、様々な観点から考えることができた。
- ・自分の意見と反対の意見を考え、述べることはとても難しいと思います。しかしながら、教師にとっていろいろな角度から物事を考えるということは非常に良い経験だなと感じています。これからの教師人生でもディベートの機会は大切にしていきたいと思います。
- ・ディベートの中でみんなの意見をきれいにまとめてくれる方がいたので、そのようなスキルがあるのは素晴らしいことだなと感じた
- ・毎週手書きの学級だよりを出していた自分の担任（恩師）のありがたさが分かった。
- ・ディベートでは感情的になったら負けだと思った。生徒との関わりも感情的になったらいけないと学んだ。
- ・どちらの意見ももつともで、審判として判定するのが大変だった。
- ・自分の体験談を根拠にした意見には説得力があると思った。
- ・発表が不安だったが、相手チームが相槌を打ちながら聞いてくれたので安心して発表できた。
- ・いろいろな視点からの意見が飛び交い、飽きなかった。
- ・教員の働き方改革を理由に学級だよりの発行反対と言われた時は反論に困った。
- ・「配布しても生徒が保護者に見せない」という意見に対し、「ネットで配信する」という意見は目からうろこだった。
- ・オンラインでディベートを行う場合は、「理由は3つあります」などと初めに言うのが分かりやすい。
- ・皆さんの根拠を聞き、生徒総会自体と生徒主体の重要性に気付かされました。
- ・自分は教員主導の生徒総会しか経験していなかったが、生徒主体で行う生徒総会もありだと思った。
- ・2回目のディベートだったので、意見を闘わせるだけでなく建設的な方向に議論が進んでいたのがよかった。
- ・生徒主体の生徒総会が理想だが、生徒指導で手のかかる生徒が多い学校ではそう簡単に生徒主体と言えないと分かった。
- ・生徒主体で行われている学校行事は、生徒を学校が信頼し、かつ、そうすることで生徒が成長するという信念を長い間引き継がれてきたものなのだと分かった。
- ・ディベートを行うことで、個人研究よりも深く考えることができた。
- ・初めてディベートの発表者になったので、慣れないところも多く、上手に話すことはできませんでしたが、班の人たちに助けってもらったり、反駁の人たちの意見をよく聞いてそれに反論できるように考えをまとめたりして、なんとかやりきることができたし、終わった後に班のみんなに「よかったよ」とほめてもらったので、自分の中でひとつ成長できた授業でした。
- ・今日は初めてのzoomでのディベートで、最初は絶対対面授業でやった方がいいと思っていたが、いざやってみるとzoomのほうが画面共有できたり、一度に全員の顔が見られたりするなどの素晴らしさに気づかされた。なので、授業で積極的にzoomを取り入れるのはありではないかと考えた。

④ ジグソー法

- ・今まで生徒の立場でしか文化祭を考えたことがなかったのですが、新しい視点や知識が増えた。
- ・問題など特にないだろうと思っていたが、考え始めるとどんどん出てきたし、班のメンバーの意見を聞いたら気づいたことが多くあった。
- ・5つの視点に分けて考えることで、深いところまで話し合うことができたのではないかと思います。
- ・ジグソー法を用いて、文化祭の実施に伴う課題について、様々なことを知る事ができました。ありがとうございました。
- ・自分の決められた項目だけ見るのではなく、複数項目を基に問題点を挙げることも必要であると学びました。
- ・今日の授業は久しぶりのジグソー法の授業だったので意外と面白かった。
- ・今回の講義で、「生徒として文化祭に参加したことがある人」の視点からは見えない、教員や地域間で発生しうるトラブルについても学ぶことが出来た。
- ・今回は、ジグソー法を用いて行なったが、とても効率的に議論できたと思う。それぞれの分野で

相談し、班で持ち寄ることで課題を厳選したりすることが容易に感じた。自分が教師になった際もこの方法は使えると思った。ぜひ利用したいです。

- ・考える視点次第で、異なる課題が見つかることがわかった。このことから、様々な問題点が潜んでいることと、それをあぶりだして対策することの重要性を感じた。

⑤ ロール・プレイング

- ・今日の授業では、生徒会サミットを経験することができ、様々な学びがありました。私は今回生徒会サミットを見ている立場だったのですが、見ているだけでも色々な発見がありました。
- ・生徒会長同士が会議をするという斬新な企画であり、戸惑うことがあったが、進行が上手くできていて、おもしろいものになっていたと感じました。
- ・「生徒会サミット」というものを特別活動論の授業で初めて知ったのですが、様々な特徴のある学校の生徒会役員同士が話し合うことで、いろいろな発想が出てくるので面白いと思いました。
- ・生徒会サミットを実際に行ったことがないので、こういう活動を生徒会が行っているということが知れてよかったなと思った。
- ・今日はロール・プレイングで生徒会サミットを行った。どの高校もそれぞれ特色があってその特色をつくるものとして校則が果たす役割が大きいことを感じた。
- ・サミットを行うことで、ほかの高校のいいところを盗めるということ、自分の高校についての理解を多角的な視点から得られるということ、高校としての普遍的な課題に気付くきっかけとなること、というようなメリットがある事に気付いた。
- ・このようなサミットの場合は、悪いところを指摘するのでなく、よいところを取り入れあっていくことが大切だと思った。
- ・授業を行う前は、生徒会同士のサミットになんか意味があるのだろうかと感じた。実際に行ってみると、新たに発見することが多くて面白く感じた。
- ・今回初めてのロール・プレイングでしたが、さまざまな角度から意見が出て面白かったです。
- ・この機会は実際に設けるととても良いと感じた。自分の高校の周囲には、公立と私立高校など多角的な意見が出ることが予想できるので、取り組んでみたかったなと感じた。
- ・ロール・プレイングでもこんなに意見が出てきた

ので、実際に、生徒はもっと意見を持っているだろうという予測をして学校側は校則に責任を持つべきだと現実の問題に繋がっていたので良かった。

- ・こういった学校の会長副会長になるロール・プレイングはやったことはなかったが、様々な意見を交わして、肯定的立場や否定的立場の視点をもって対話的に実施することができて思っていたよりもやりやすかった。
- ・サミットの様子としては、どの学校の会長、副会長も全員が喋ろうという雰囲気であったため、とても活発な話し合いだと感じました。
- ・ロール・プレイングを通して、苦情対応は感情的にならない方がよいと分かった。
- ・マスコミの対応は一生したくないと思った。
- ・校長という仕事は、客観視しながらバランスを見ていかなければならない。
- ・初めて校長役をやったが、とても緊張した。対応する相手によって話す内容や話し方を変えなければならないのは大変だと思った。
- ・実際にロール・プレイングをしてみて、校長先生の気持ちになることができた。
- ・ロール・プレイングを通して、体罰とどう向き合うか考えることができた。
- ・体罰を報告しないと大変なことになると分かった。
- ・SNSの影響はすさまじいと感じた。
- ・「被害者も加害者も体罰だと認識していない」という点が難しいと思った。
- ・同じことでも立場によってとらえ方が全く違うと思った。だから、校長は大変だ。
- ・体罰はいじめと違い、生徒がどう感じるかではなく、暴力行為があったかどうか重要であることがロール・プレイングを通して分かった。

ウ 学生による授業改善アンケートから見た検証

① 5段階評価による評価5と評価4の比率 (受講者42名中回答30名)

- 「この授業では、積極的な工夫がされていましたか」
大変工夫していた：56.7%
工夫していた：33.3% 合計90.0%
- 「この授業内容を理解できましたか」
大変理解できた：76.7%
理解できた：3.3% 合計80.0%
- 「この授業を履修してよかったと思いますか」
大変よかった：66.7%
よかった：20.0% 合計86.7%

② 自由記述より（原文のまま）

- ・授業形態がしっかりと成り立っていて良かったと思いました。基本的にホームルームの課題や事例について考えられ、今まで生徒目線でしか見てこなかったことを教員目線から見て話し合いができたため、面白かったと同時に懐かしさもありました。そして、教員になる上で重要となってくる事例を楽しく学べて良かったです。
- ・模擬授業などを通して特別活動論とは何か、工夫する点などを学ぶことができた。
- ・とてもわかりやすく、受けやすい授業でした。
- ・多くの人と意見交換をし、自分の視野を広げることができたとともに、人前で発表することに少しずつ慣れることができたので良かったです。
- ・全体的にとても面白かった。生徒として参加していた学校行事を教員目線で振り返る貴重な体験が出来る授業であった。教員目線で分かる意外な新たな事実を見ることも出来た。
- ・一見問題点などなさそうに見える教員の仕事だが、様々なトラブルが起こり得ることがわかった。それを話し合ったり模擬授業を行ったりするという活動を通じて知ることができた。
- ・ロール・プレイングや模擬授業等で行うグループディスカッションを主体とした形式が楽しかった。
- ・HRの模擬授業はなかなかできない経験で、とても役に立った。実際に学校で起きそうな問題について具体的な話し合いができたり、他の人の模擬授業を見て学んだり、とても濃い授業だった。
- ・授業がとても工夫されていました。毎回、これまで考えたことのないテーマを扱っていただき、そして学生主体で授業が進み、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・模擬授業やzoomの特性を活かしたディベート、ジグソー法による授業など毎回面白かった。グループワークも多かったので、自分の意見を考え、伝える練習にもなった。
- ・教師になる上で授業以外の場で経験するであろう問題について事前に考える機会になってよかった。自分では想定しきれない問題にグループワークを通じて気づくことができた。
- ・いろいろな特別活動の懸念点について考えられた
- ・特別活動（文化祭や卒業式等）の授業を教職でここまで扱うとは思っていなかったの、とてもためになった。改善点は特にないです。ありがとうございました。
- ・話し合いや時間を決めて話すことができた点がよ

かった。

- ・模擬授業はとても面白く、貴重な経験となったので良かったです。
- ・生徒会活動、修学旅行、文化祭などの様々なテーマについて、教師として注意しなければいけないことを学べて良かった。
- ・ディベートやジグソー法など、内容により対面とオンライン（Zoom）形式を使い分けたことで、他の受講生とより効果的に意見を交わすことができたと思います。
- ・演習がメインであったため、より実践的に学びを深めることができ、大変勉強になりました。模擬授業などは、とても貴重な経験となりました！半年間、ありがとうございました！
- ・自分が学生時代に疑問に感じていたこと（生徒会の意義、文化祭等行事と生徒の関わりなど）に関してじっくり考えることができた。答えのようなものは存在しないものの、他者の意見を通して、自分なりの答えをつくることができた。

Ⅰ 研究仮説の検証

上記の結果から、授業実践を通して次の通り研究仮説が検証された。

学校において担任や校務分掌で経験する様々な事例を基に授業内容及び授業方法を工夫すれば、特別活動論においてアクティブ・ラーニングが実現できる。

5 研究のまとめ

(1) 研究成果

上記のとおり、授業中の学生の様子や課題に書かれた授業感想、授業改善アンケート等から、「学校において担任や校務分掌で経験する様々な事例を基に授業内容及び授業方法を工夫すれば、特別活動論においてアクティブ・ラーニングが実現できる。」という研究仮説が検証できたことが研究の成果である。つまり、次の工夫を行えば、「特別活動論」の授業においてアクティブ・ラーニングを実現できることが明らかになった。

ア 授業内容の工夫

- 担任や生徒指導部の教員が遭遇するテーマ
- 学級活動・学校行事・生徒会活動・部活動の分類を明確にした事例
- 正解が一つでないテーマ

イ 授業方法の工夫

- 個人研究の時間確保

- グループ協議及び開始時の自己紹介
- ジグソー法
- ロール・プレイング
- デイバート
- 代表者による発表及び発表時間の厳守
- 授業内容に応じたオンライン授業の活用
- 対面授業における zoom 参加者への対応
- 毎時間の課題にコメントを書いて次回に返却

(2) 今後の課題

ア 授業改善アンケート（自由記述）より抜粋

- ・タイムキーピングが甘く、時間内に終わらない授業が多くあったため、改善すべきだと思います。また、学生の発表や意見交換の時に、先生の意見で遮らないで頂きたいです。
- ・グループワーク、模擬授業ともに間伸びしてしまっているように感じるがあったので、もう少しメリハリがあると良いかと思った。何度か授業が時間を超えて終わらなかったことがあったので、5限のさらに遅い時間まで授業が伸びるのは少し辛かった。
- ・発表するのに内容の軸を決めたり構成をしたりする時間がなくて大変だった。
- ・活動ごとの時間配分については、場合によって多かったり少なかったりしたことがあったので、その時々で調整していただくとより良い授業になると思います。
- ・ジグソー法も工夫したら教室でできたのではないかと思った。教室で行った方が話し合いが良くできた。デイバートはもう少し準備時間がないとしっかりできないと感じた。
- ・Zoomで行った内容の授業も対面で良いと思う。

イ 今後の課題

授業改善アンケート、授業中の様子、提出課題の感想欄により、次のことが今後の課題として残った。

- ① 演習内容の効率化（100分に収まるように）
- ② 全ての授業の対面授業実施
- ③ 振り返りのためのグループ協議時間確保
- ④ 授業の最後に行う指導講評の内容精選
- ⑤ 授業の最後に書かせる感想の時間確保

6 引用文献・参考文献等

(1) 引用文献

- * 1 洗足学園音楽大学教職課程年報, (4),27-42 (2020-03-01), 2433-9245「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 ―授業実践を通じた成果と課題―」(田神 仁)

- * 2 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(平成 24 年 8 月 28 日)
- * 3 文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」アクティブ・ラーニング失敗事例ハンドブック (平成 26 年 11 月)

(2) 使用ソフト

- ア ビデオ会議システム
 - zoom Ver.5.11.3 (zoom 社)
- イ ワードプロセッサ
 - Microsoft Word (Microsoft 社)
- ウ ブラウザ
 - Microsoft Edge (Microsoft 社)
- エ 学習支援システム
 - Hoppii (法政大学)

図1 (グループ協議)

特別活動論 第12回 提出課題

田神 仁

学級活動・学校行事に関する演習④(卒業式) グループ協議

座席番号 () 氏名 _____ 整理番号 _____

(1) [班分け] 8班に分ける。数学と理科が混ざるように。なるべく知らない人と。(5分間)

(2) [個人研究] 次の事例を読んで、公立H高校の卒業式に関わる課題とその解決策を下の欄に記入しなさい。(8分間)

T教諭は公立H高校で、3年D組担任である。12月のある日、3学年会で3月の卒業式が話題に出た。A組担任のA教諭は、「そもそも思想信条の自由が憲法で保障されているのだから、『国歌斉唱』を強制するのはおかしい」と言った。それに対してB主任教諭は、「儀式的行事においては国旗掲揚・国歌斉唱を生徒に指導することが義務付けられています」と述べたところ、A教諭は「何という法律に書かれているんですか？そんな法律聞いたことがない」と言い返した。このやり取りを聞いていたC教諭は、「卒業式は生徒が主役の行事なのだから、式次第は生徒に考えさせればいいじゃないですか」と話した。それを聞いていた副担任のE教諭は、「私は担任ではないので当日生徒を指導する立場ではないから、国歌斉唱のときは教員席でずっと座っているつもりです」と言った。T教諭が「保護者は自分の子どもが卒業証書をもらうところを見たいはずだから、生徒一人ずつ全員が卒業証書をもらうようにしたらどうですか」と話したところ、「それじゃ時間がかかり過ぎる」とC教諭が答えた。なかなか議論が進まないまま学年会の時間は過ぎていった。

○ あなたが考えられないことを推測し

【課題】

- ① A教諭のコミュニ
- ② 国歌を歌うべきか
- ③ 生徒一人一人に
- ④ 担任以外の意識

【解決策】

- ① ボランティア活動など
- ② 生徒にアンケート
- ③ 来賓の方の紹介
- ④ 卒業式の仕事の

(3) [グループ協議]

- ① 一人15秒以内
- ② 上記(2)で書いた

(4) [グループ替え]

- ① グループのメンバー

(5) [グループ協議その2] (15分間)

- ① 1回目のグループ協議で出た意見を持ち寄り、グループで意見交換しなさい。
- ② グループで出た意見の中からなるほどと思った意見を下の欄に記入しなさい。
- ③ 発表者を決めなさい。

【課題】

- ・国歌を歌うべきか
- ・卒業証書はどのようにするか

【解決策】

- ・一人ずつやる
- ・強制式でかたず。アンケートをとって親の要望をまき、生徒にも、副担任の考案と任意。

(6) [発表] どんな意見が出たか。(1分間×8グループが発表)

(7) 指導・講師

(8) 今日の授業に関する感想・質問等

卒業式で生徒からアンケートを取ることは、今まで聞いたことかなか、たので新たな意見だと感じた。卒業式というのは、受け身の立場であつたので、生徒が主役となった卒業式は、生徒としても満足ないく結果となると思う。来賓紹介や校長先生の話を短縮することかできれば、生徒一人一人に卒業証書を渡すことかできると思った。

2分、お通りです。

科目は文科を短く対等かし、来賓は若く人数に合わせる。

図2 (模擬授業)

特別活動論 第5回 提出課題

田神 仁

学級活動・学校行事に関する演習① (文化祭の出し物決め)

座席番号 (36) 氏名 _____ 整理番号 _____

(1) 班分け [3分]

- 6~8人ずつ 8班に分かれる。1つの班にはなるべく数学と理科の両方がいること。

(2) [個人研究 1] 次の事例を読んで、文化祭の出し物決めに伴うトラブル (生徒の反応など) とその対応について、考えられることをなるべくたくさん下記の欄に書きなさい。 [8分]

T教諭は公立高校新採2年目の教員であり、今年度初めて1年A組の担任になった。来週の文化祭実行委員会で、文化祭での各学級の出し物を持ち寄ることになった。そこでT教諭は、今週のホームルームで担任をしている1年A組の出し物を決めることにした。ただ、文化祭の出し物については飲食店の数や保健所の事前申請、壁や天井にガムテープを貼らないなど多くの制限があるため、事前に学級の文化祭委員と学級委員を呼んで打ち合わせをすることにした。なお、不参加も含めて出し物は次の5つが考えられる。

- 飲食店 ○ 展示 ○ ゲーム・カラオケ等の体験施設 ○ 演劇 ○ 不参加

(文化祭の出し物決めに伴う)

- ① トロワ人の意見
- ② 意見の対立がある
- ③ 予算の不足

(その対応)

- ① 最初に1人15秒で自己紹介
- ② 代表者に70秒で発表
- ③ その生徒が来たまま予定のある人は

(3) [グループ協議 1] 文化祭の出し物についてグループで意見交換し、最初に1人15秒で自己紹介

(席替えに伴うトラブル) 生徒

- ・ 千鳥ついでセリフ
- ・ 根拠を守らねえ
- ・ 意見の小説人ババ
- ・ 意見の対立

(その対応)

- ・ 現金を便やたふいふ
- ・ 先生と委員と話し合
- ・ 事前に発表の場
- ・ 学級委員に呼びかける

(4) [模擬授業] 代表して2つの班が実施。(2つの班を決める)

代表者が担任になって、ホームルームで文化祭の出し物決めを行ってください。他の班の人は、生徒役になってトラブルを起こしてください。担任役は、それらに対応してください。担任役の班の人は、担任役が終わったときにヘルプしてください。(担任交代可)

[e20分間×2回]

(5) [グループ協議 2] [10分]

模擬授業における担任役の話し方や態度で、よかった点と悪しき点についてグループで意見交換し、なるほどと思えた意見を書きなさい。★発表者を決める。

(よかった点)

- ・ 最初に、各自発表の順番を決めて、生徒の反応を気にせず発表
- ・ 最初に、話し合いを促して、発表の順番を決めて、1人2票の発表
- ・ 生徒の発表の順番を決めた。

(悪しき点)

- ・ 最初に、金銭か否かを決めるべき
- ・ 不参加という意見と尊重した方がいい
- ・ 生徒の発表の順番を決めた。

(6) [発表] 模擬授業以外の3つの班が代表して発表する。 [e1分間×代表して3つの班]

(7) [個人研究 2] 下記の欄に記入しなさい。 [8分]

(模擬授業、グループ協議、発表等を通して学んだこと)

- ・ 先生が発表の順番を決めて、生徒に発表の順番を決めて発表させた。
- ・ 先生は、話し合いの場を設けて、発表の順番を決めて、1人2票の発表
- ・ 先生が発表の順番を決めて、生徒の発表の順番を決めた。
- ・ グループで話し合いを促して、発表の順番を決めた。

(今日の授業に関する感想・質問など)

教室の雰囲気が良かった。(生徒や学級委員)はどのようだったか。先生は、先生と生徒の話し合いを促して、発表の順番を決めて、1人2票の発表

(8) [指導・評価]

就実業科で解決を図ります。

初めに委員会を行います。

また、生徒会と委員の関係もあって、生徒会役員も出席します。

確信は、セリフや作茶の機軸です。作茶は、どの人が果敢と、どの人が果敢と、昔はよくありましたが、若者たちがBTの観点で見ると機軸です。

図3 (ディベート)

特別活動論 第3回 提出課題

田神 仁

学級活動に関する演習③(学級だより) zoom

氏名 _____ 整理番号 _____

(0) 手順等の説明 (2分間): zoomの「ビデオ ON」にする。顔を見て話す必要がある。

(1) 個人研究 (8分間): 下の事例を読んで、自分が考えた両方の立場の意見を記入しなさい。

テーマ: 担任は学級だよりを発行すべきか、否か?

T教諭は公立高校新採2年目の教員であり、今年度初めて1年生の担任になった。5月下旬のある日、T教諭は教育委員会の初任者研修で「これからの学校に必要なことは社会に開かれた教育課程、つまり、家庭や地域との連携である」と学んだので、6月から担任として学級だよりを出すことにした。そのことを1学年会(1学年担任の会議)で話したところ、ベテランのA教諭が「ただでさえ教員は死ぬほど忙しいのに、自分で自分の首を絞めてどうするのか」と述べた。学年主任のB主幹教諭は、「若手教員が学級だよりを出そうとしているのに邪魔しなくてもいいでしょ」と言った。このやり取りを聞いていたC主任教諭は、「学級だよりを配布しても生徒は保護者に渡しませんよ。私も昔発行しましたが、無駄だと思いました」と話した。T教諭は、「工夫すれば学級だよりを出す効果はあると思います」と言ったものの、どう工夫すればいいかは分からなかった。

(自分が考えた「発行すべき」)

- ・クラスの雰囲気よくなる
- ・毎回クラスの人紹介をした
- ・保護者の方が、学校での
- ・修学旅行や体育祭などの

(自分が考えた「必要なし」)

- ・私が中学生や高校生の頃
- ・人もいなかった。
- ・教員は忙しく、もっと他
- ・で出す程度がいい。そのほ

(2) 班分け(1分間): zo

★立場と手順の確認。

★審判の班は、ディベ

	ルール
発行すべき立場	1班
必要なしの立場	2班
審判	3班

(3) 作戦会議(その1)(1分)

★15秒で自己紹介。共

★1班の立場で理由を

★1班の審判の班は、(3)班の「必要なしの立場」で作戦を立てておく。

- (1) 発行すべき・必要なしの立場 ←いづれかにO印を付ける。
- ・私が中学生や高校生の頃は、重要書類以外は渡さなかったし、真りに学級だよりを読んでいる人もいなかった。
 - ・教員は忙しく、もっと他にやらなければならないことがあるので、行事の前等の必要な時に臨時で出す程度がいい。そのほうが生徒は親に渡そうという気持ちにもなるし、教師の負担も減る。
 - ・保護者が求めてないかも
 - ・生徒が親に知ってほしくないこともある
 - ・ブライパシー、肖像権等の問題やトラブルにつながる

- (4) ディベート1班 実施 (15分間) ツレイクアウトルール1とルール2を使用。
- ★審判の中からタイムキーパーを出す。タイムキーパーは、スマホのタイマー画面を見せる。
 - 手順: ①「発行すべき」立場の意見表明 (4分間)
 - ②「必要なし」の立場の反駁 (4分間)・・・相手側の理由を論破する。
 - ③「発行すべき」立場の最終意見表明 (2分間)
 - ④ 審判による勝敗判定・誤評 (3分間)・・・審判が多数決で決める。

- (5) 作戦会議(その2) (6分間)
- ★2班の立場で理由を出し合い、ディベートに備える。下記の欄に追記する。
 - ★2班の審判の班は、(3)班の「発行すべき立場」で作戦を立てておく。

- (1) 発行すべき・必要なしの立場 ←いづれかにO印を付ける。
- 理由:
- ・クラスの雰囲気がよくなる。クラスのみんなのことを知る。(面白い学級だよりにするために、毎回クラスの人紹介をしたりするといいたいもー)
 - ・保護者の方が、学校での様子を知れる
 - ・修学旅行や体育祭などのイベントに向けて、クラスで情報を共有できる
 - ・家庭との連携

- (6) ディベート2班 実施 (15分間) ★審判の中からタイムキーパーを出す。
- 手順: ①「発行すべき」立場の意見表明 (4分間)
 - ②「必要なし」の立場の反駁 (4分間)・・・相手側の理由を論破する。
 - ③「発行すべき」立場の最終意見表明 (2分間)
 - ④ 審判による勝敗判定・誤評 (3分間)・・・審判が多数決で決める。

- (7) ディベート3班 実施 (15分間) ★審判の中からタイムキーパーを出す。
- 手順: ①「発行すべき」立場の意見表明 (4分間)
 - ②「必要なし」立場の反駁 (4分間)・・・相手側の理由を論破する。
 - ③「発行すべき」立場の最終意見表明 (2分間)
 - ④ 審判による勝敗判定・誤評 (3分間)・・・審判が多数決で決める。

(8) グループ協議 (8分) →発表(代表者3人×1分) →誤評

- (9) 今日の授業の感想・質問等(授業後に記入)
- 今日の授業では、今年初めてのディベート形式の授業で、あまりうまくいかないことも多かったですが、慣れて話し合いをしたとき、なかなか意見が出ないときがあり、話し合いがうまく進みませんでしたが、今回はこの反省を生かして、話し合いの時に意見が出なくなったら自分から話題を振ってみたい、新しい視点を提案できるようになりたいです。また、他の班の意見も聞いたとき、生徒目線だけでなく、先生成長できると言っている班があって、私たちの班にはなかった発想だったので面白かったです。

コメントの追加(誤解): 預れば大丈夫です。

コメントの追加(誤解): いいですね。教員研修センターでは、教員向けに希望者を対象に集団討論研修を行っています。そこでは、テーマの受け止め方や話の取り方、議論の話し方などについて指導してくれます。

コメントの追加(誤解): いい議論でした。

図4 (ジグソー法)

生徒会活動・学校行事に関する演習③(職場体験) ジグソー(zoom)

氏名 _____ 監理番号 _____

(1) [班分け] zoomで8つの班に分ける。数学と理科が班内に混在するように。(2分間)

(2) [事例把握] 次の事例を読んで、状況を把握しなさい。(2分間)

丁教諭は公立中学校新採2年目の教員であり、2年A組の担任である。2年生は10月に職場体験を予定している。7月上旬の2学年会(2学年担任の会議)で、2学年担任にはベテランも若手もいるので、職場体験実施上の留意点について事前研修することが提案された。研修方法は、実施上の留意点を考える視点を決めて分担し、次回の学年会に持ち寄るというものであった。その視点は下記のとおりでである。

A体験先開拓 B体験先割り当て C実施中の対応 D事後の発表会 E家庭地域対応
そこで、2学年担任全員を5つの班に分けて検討し、その結果を持ち寄ることになった。

(3) [役割分担] (5分間)

- ★最初に1人15秒で自己紹介する。[今]
- ★各班の中で、次の検討する視点の担当を
A体験先開拓 B体験先割り当て C

(4) [個人研究] (8分間)

- ★自分の「検討する視点」に○を付け、
「点」について自分で考えた意見を記入

視点 A体験先開拓 B体験先割り当て

(自分の視点で考えた実施上の留意点)

- 現実的に行ける距離であるか。
- 開拓先は中学生が学ぶのにふさわしい場所か。
- 開拓先にとって過度な負担にならないか。
- 適切な人が対応してくれるかどうか。(前

(5) [部屋替え & 協議] (20分間)

- ★視点ごとに行き、イクアートルームに集

- A 体験先開拓 ー ルーム1
- B 体験先割り当て ー ルーム2
- C 実施中の対応 ー ルーム3
- D 事後の発表会 ー ルーム4
- E 家庭地域対応 ー ルーム5

- ★協議の中でやるべきと思った留意点

視点: A体験先開拓 B体験先割り当て C実施中の対応 D事後の発表会 E家庭地域対応
(なるほどと思った実施上の留意点)
・生徒が体験するような職業の許可をもらうのが難しい場合がある。
・担当がどういふ立場で何人欲しいと思っているかを確認する。
・開拓時間を早めに設定して余裕持つ。
・生徒の身の安全が保障出来るか。
・力仕事など限られた生徒しか出来ないのは避けたい。
・下見で職場の雰囲気をつかみ、ふさわしい場所を選ぶ。
・生徒がイメージしやすく出来るようにする。

(6) [互いへ意見を協議] (20分間)
★元の班に帰って、視点ごとの「留意点」をまとめて協議し、重要留意点(上位3つ)を指定して決める。互いの班に記入しなさい。★発表者を決める。

1班: (視点: C 実施中の対応)
・生徒もお店側も気持ちよく終わるために重要だと思うから。
→ 出来れば
体験先にたどり着けるか
遅刻・欠席対応の連携
企業側の事情による対応(他のどこに行けるようにするなど)
実施中の体調不良・ケガの対応
生徒の言葉遣い・言動・服装対応
器物損壊などの対応
2班: (視点: E 家庭地域対応)
・多くの人が関与する分、注意も必要だから。
→ 出来れば
体験先でのマナー
交通マナー
家庭からの説明・受領
保護者が来てしまう
体験中というようなプレートを付ける
地域からのチーム対応
関係先(お客さんとお店)に対する対応
生徒がケガをし、保護者とお店間で口論が起きた場合の対応
生徒体験によるお金のイメージ変化
3班: (視点: A 体験先開拓)・学校外のことが聞けることから留意する必要があるから。

(7) [発表] (8分×5班)
★各班の発表者が、重要留意点3つごとの解決策を1分以内で発表する。

(8) [指導・講師] (指導後に記入)

職場体験という研修を通して最も大切なポイントがメインだったが、そこに至るまでに教師は与色色な試行錯誤を繰り返しているのだと分かった。またこのように考えられて実施しているのだ、と感心した。ただ付で終わらぬようにする点にも、生徒に目的を伝えたり自分で考えたりする時間もあるべきだと思った。さらに、実際に職場体験の実施にあたってどのような問題が生じたことがあるのかも分かった。そして問題が生じた場合、学校内だけでなく地域の人々や子ども達も巻き込むような研修であるので、学校内で教師が生徒にしっかりと指導を持って取り組んでもらえるようにする方法も考えたいと思った。他に、現在の意見交換が活発で良かったことから、どのようにアツロ一平していけば解決できるかということも考える機会にもなった。今回体験するべく話を振るようにして対応したが、既述が話し合いの場から出る方法があまり思いつかなかった。

コメントの追加 [講師] 学校内の人々には気を遣わなければならぬので、校外行事は慎重に入塾です。

コメントの追加 [講師] 体験先でトラブルが起きたときどのような手順で対応していくかを説明書や指示書を書いて現場管理マニュアルにしておくことが重要だ。

コメントの追加 [講師] 一般的にイベントを準備していく留意点もある場合は、「事前・事中・事後」で考えたいでしょう。「体験先開拓」は事前準備に当たると、「もしも問題が起きたら何処が原因か?」というような観点で考える必要があると思います。

図5 (ロール・プレイング)

特別活動論 第14回 提出課題

田神 仁

部活動指導に関する演習 ロールプレイング

氏名 _____ 整理番号 _____

田
227.15
神

(1)【班分け】8班に分ける。数学と理科が混ざるように。なるべく知らない人と。(5分間)

(2)【個人研究】下の事例を読んで状況を把握しなさい。(5分間)

県立H高等学校では学校経営方針に「文武両道」を謳っており、部活動が活発で、特にサッカー部は全国大会常連校であり、顧問であるA教諭の指導の下、厳しい練習で有名である。サッカー部入部を目的に全国から大勢の生徒がH高等学校に入学してくる。^{指導も過信}

7月のある日、サッカー部が夏の大会前の練習を行っているとき、部員が気に入って練習していないと判断したA教諭は、特に気を抜いている部員3人を整列させ、尻に蹴りを入れて気合を入れた。その後、部員たちは練習に身が入り、その日の練習を終えた。後日、サッカー部は県予選を勝ち抜き、今年も全国大会への出場権を得た。^{+2-3人泣いているのを見た}

全国大会直前のある日、A教諭が部員である生徒を並ばせて尻を蹴っている動画がSNS上に流れ、A教諭が日常的に部員の生徒に対して暴力を振るっているという情報が校長のところに届いた。校長がA教諭やサッカー部員を個別に呼び寄せて事情を聞いてみると、全員が「指導は

厳しいが体罰ではない。全国大会へ一部員ではない生徒に聞いたところとがあるという多数の証言が出た。者たちが校長室に押しかけ、「A先生一部のどの生徒もどの保護者もA先指導してもらいたくないから他県から入す。この件を体罰として教育委員会「SNSで体罰動画を見た。学校はコミから相次いだ。校長は、どうし

(3)【役割分担】面談のロールプレイング

- ★初めに一人15秒で自己紹介す
- 1 回目：校長 vs A教諭
- 2 回目：校長 vs 目撃した他部
- 3 回目：校長 vs サッカー部の
- 4 回目：校長 vs マスコミ

(4)【ロールプレイング】(10分間×4)

- ① 上記の事例を基にしてロールプレイング
- ② ロールプレイングをしていないを書きなさい。(自分がロールプレイング)
- ※ロールプレイング実施上の注

【1 回目】
(校長役のよかった点)
・ コーチ事情と確認はいい良かった。初めに事実確認の入りで良かった。
・ これまでの実績も認めの上で、今後の対応を決めては良かった。
(校長役の課題)
・ もう少し練習、とやめた時の状況について詳しく掘り下げた方がいい。

【2 回目】
(校長役のよかった点)
・ 事実確認の際に、A教諭の発言とコーチの言わなかったのは良かった。
・ 他の目撃者がいかに確認しているのは、今後の情報収集に役立つと思った。
(校長役の課題)
・ 他部活の現状も確認できるといい(4回目も多分)
・ SNSがどういった状況で、それによってA教諭に何の影響があったか、今後の生徒の対応

【3 回目】
(校長役のよかった点) サッカー部の保護者役
(校長役の課題)

【4 回目】
(校長役のよかった点)
・ A教諭の今後の扱いについて、慎重に説明は良かった。
・ 現状、どう対応していくか行われたかも説明は良かった。
(校長役の課題)
・ 情報収集の際に「練習、とやめた」と言われた生徒は初めに話を聞いてほしい。
・ 暴力で「練習、とやめた」という表現が入った後に「尻に蹴った」というのが良かった。

(5)【グループ協議】校長としてどのような結論を出せばよいか検討しなさい。(発表者を決める)
(15分間)

(6)【発表】(10分間×8班)
(7)指導・摘評
(8)【今日の授業についての感想・質問】

保護者役として、SNSの情報は必ず不確定な要素をきっかけに全国大会まで進んでくれた。先生が大変前向きに話を聞いてくれたのが、事実として報告しなかったという点で、これは今後の指導に各々の影響が非常にあった。そして、この事態にどう対応していくかは、各々の意見も聞いて、指導も過信見直しが必要かと思ふ。

全14班の演習で事とした。授業改善アンケートにご協力ください。
確かに、でも、事例のように良い経験が出ていると、本人は自分指導を過信し、周囲の意見は口に出さない教師員になりやすい。